



[公式Twitter] @sendai\_simc

[ボランティアブログTwitter] @simc\_volblog

Vol.8-2

(2021.8.27 第8回コンクール関連 第2号)

## インタビュー シャノン・リーさん

【第7回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門第2位（最高位）】

2019年に行われた仙台国際音楽コンクールでヴァイオリン部門第2位（最高位）に入賞されたシャノン・リーさんにメールにて、コンクールの思い出や近況をうかがいました。残念ながら今秋の来日は叶いませんでしたが、次の来日を期待しつつお読みいただければと思います。

### 第7回仙台国際音楽コンクール（SIMC）が開催されてから2年が経ちました。コンクールに参加したことで、生活や演奏に何か変化が生まれましたか？

SIMCに参加した時が初めての訪日だったので、そこで日本文化を経験できたことは本当に素晴らしかったです。クリーブランド（アメリカ）に帰ってからも、学校で日本語授業を受けるほど刺激を受けました。そしてその年の12月には、東京で演奏することもできました。SIMCでの演奏経験はなにものにも代えがたく、今でもその時の感覚を覚えていますし、その記憶から学ぶこともあります。

### 前回のSIMCでの、印象的な思い出についてお聞かせください。

それはもう忘れられない瞬間がたくさんありました。私の誕生日（6月30日）は、仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演するガラコンサートの日だったのですが、そんなことは誰も知らないだろうと思っていました。本番リハーサルで、チューニングをした後、ハーブが口短調でバルトークの協奏曲を弾きはじめると思って待っていました。それがなんとト長調ではじまり、しかも皆さんが突然ハッピーバースデーを弾き始めたのです！本当にびっくりしました。SIMCでの演奏終了後、聴衆の皆様からのメッセージを読んだことも覚えています。どれも本当に温かいメッセージでした。他の出場者たちと一緒にレストランに食事に出かけたり、街の周辺を興味深く散策したりもしました。また、ホテルの朝食を一緒に楽しむこともありました。今でも時々連絡を取り合っている人もいます。

### 他のコンクールとSIMCとの違いはどこにあると思いますか？

まず、SIMCの課題曲が他のコンクールとはかなり違います。指揮者あり・指揮者なしで、さらにコンサートマスターとして、様々な立場でオーケストラと共演することが重視されています。ピアノとの共演は全くありませんし、課題曲も毎回変わります。始めに課題曲リストを見た時、必修曲の多くが既になじみ深いものだったので、ラッキーと感じたことを覚えています。もちろん、大きく違う点といえば、

それは仙台で開催されるということです。初めての日本を仙台で体験できたことは本当に幸運でした。コンクール中は、ボランティアの皆さんのお手伝いで着付けに挑戦したり、ホストファミリーと一緒に楽しく過ごしたりと、リラックスした時間を楽しむことができました。



シャノン・リーさん

### コロナ禍の中、どのように過ごされてきましたか？

コロナ禍の初期はロックダウンが今よりも厳しかったので、散歩したり、水泳をしたり、友達や家族との交流に時間を使っていました。大きな挑戦のひとつは、友人の録音に自分の録音を重ねてリモートアンサンブルを作ったことです。その後、学校で一定の予防対策を講じながらの対面授業が再開され、他の人とまた一緒に演奏したり、少人数の聴衆の前で演奏したりできるようになったので、とても嬉しかったです。また、高齢者のための活動で奨学金の一部を受け取ることができるので、施設で何回かリサイタルを開きました。約1ヶ月に一度、そのための新しいプログラムを考えることも楽しかったです。私自身、感謝祭やクリスマスなどの休暇に家族と過ごせなかったため、同様に家族に会えないまま休暇を過ごさざるを得ない入院患者さんたちのためにZoomで演奏もしました。ごく最近では、この夏のヴァージニアでの音楽フェスティバルで、以前に習っていた先生のアシスタントティーチャーとしてお手伝いをしました。

### 音楽のほかにどんなことをするのが好きですか？

散歩、水泳、読書、新しい食べ物の発見、新しい言語を学ぶこと、そして友人と過ごすことが好きです。去年はクリーブランドで多くの時間を費やし、エリー湖にもよく行きました。携帯電話には「オハイオ州の水辺」の写真がたくさん入っています。なんとこの間の冬には凍った湖も見ることができました。

### 最後に仙台市民や日本の聴衆へ一言メッセージをお願いします。

パンデミックという経験したことのない事態の中ですが、仙台の皆様がお元気に過ごされていることを願っています。仙台や東京に行けなかったことを本当に残念に思っています。そちらへ戻って、皆様ともう一度音楽を共有できる日を心待ちにしています！

## ～仙台クラシックフェスティバル2021特集～



10月1日(金)～3日(日)まで、仙台クラシックフェスティバル2021が開催されます。昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大のため代わって“クラシックエール仙台”が開催されましたので、2年ぶりの「せんくら」開催となります。クラシック音楽三昧の3日間を十二分に満喫しましょう！



せんくら2021

<https://sencla.com/>



### 今年の聴きどころ

今年は83のバラエティに富んだプログラムが用意されており、それぞれ45～60分間の公演となっています。気軽に楽しむことができそうな公演時間です。好きな作曲家や曲を選んで聴いてみる、お気に入りの演奏家をねらって聴きに行く、または、空いている時間に聴ける公演に立ち寄ってみる、などなど、プログラムの選び方は自由自在です。あなたのオリジナルの組み合わせで贅沢なひと時をお楽しみください。では、おすすめの楽しみ方などをご紹介します！

まず、フランスの大作曲家**サン＝サーンス**に注目です。没後100年ということで、全14曲からなる組曲「動物の謝肉祭」を聴き比べてみるのはいかがでしょう？

優雅で美しい旋律の名曲「白鳥」をチェロとピアノで味わえる公演番号43や、幻想的で美しい旋律の「水族館」はピアノアンサブルの公演番号60を始め、さまざまな公演で楽しめるので、秋の謝肉祭＝カーニバルを楽しみましょう！また、来年開催される第8回仙台国際音楽コンクールピアノ部門ファイナルの選択曲には、サン＝サーンスのピアノ協奏曲もあります。どんな曲が課題曲になっているか気になった人はコンクールの公式ウェブサイト (<https://simc.jp/>) をチェックしてみてくださいね。

そして、今年アルゼンチンの作曲家でありバンドネオン奏者の**アストル・ピアソラ**生誕100年メモリアルイヤーでもあります。ピアソラの名前を知らなくとも、「リベルタンゴ」をCMや映画などで一度は耳にしたことがあるのでは？バンドネオンとピアノの情熱的で魅惑的な世界へ誘ってくれる公演番号13や、記憶に新しい第7回仙台国際音楽コンクールのヴァイオリン部門入賞者の北田千尋さんがメンバーのカルテット・アマービレの公演番号51も楽しみですね。ギターと尺八で新たな融合となる公演番号75も「せんくら」ならではの組み合わせ！あなたの新しい扉が開かれるかもしれません。

その他の作曲家では、**昨年生誕250年の記念の年だったベートーヴェン**も、改めてじっくりと味わいたいところです。新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年に世界各地で予定されていた演奏会で中止を余儀なくされたものも多かったようですが、今年のせんくらでは多くの公演で取り上げられますので、この機会にじっくり堪能したいところです。おすすめは、公演番号12のリスト編曲の交響曲第5番「運命」。超絶技巧のピアノソロバージョンの「運命」を生で聴ける機会はなかなかありませんよ。公演番号50のリスト/金子三勇士編曲のピアノ版交響曲「第九」も、どの部分が聴けるのかとても楽しみです。

それから、公演番号24のドヴォルザークの歌劇「ルサルカ」から「月に寄せる歌」も私のお気に入りの一曲。月のきれいな秋にぴったりの美しい曲です。

コンサートの楽しみ方は十人十色。今年の「せんくら」のテーマは「さらに、みんなの、せんくらへ。」あなた自身の心に響く曲や演奏を「せんくら」で、ぜひ見つけてみてください。

43	10月2日(土) 19:45～20:30	13	10月1日(金) 15:00～15:45	51	10月2日(土) 13:15～14:00	75	10月3日(日) 16:15～17:00	12	10月1日(金) 12:00～12:45	50	10月2日(土) 10:45～11:30	24	10月2日(土) 20:00～21:00
笹沼樹 チェロ・リサイタル 美しきメロディ「親愛の言葉」 笹沼樹(チェロ)、青柳音(ピアノ)		三浦一馬&山中停史 情熱と哀愁のバンドネオン 三浦一馬(バンドネオン)、 山中停史(ピアノ)		ニューヨークとミュンヘンが認めた カルテット・アマービレの はじけるピアソラ！ カルテット・アマービレ(アンサンブル) (ヴァイオリン:藤原悠那、北田千尋 ヴィオラ:中恵菜、チェロ:笹沼樹)		福田進一&藤原道山 新たな融合～ギターと尺八の世界 福田進一(ギター)、藤原道山(尺八)		及川浩治 ピアノ・リサイタル ～ピアノで弾くベートーヴェン 「運命交響曲」～ 及川浩治(ピアノ)		金子三勇士 ピアノ・リサイタル ～今だから届けたい！ 刺激と癒しのピアノステージ～ 金子三勇士(ピアノ)		コンサートホールが歌劇場に変わる！ 華麗なるオペラの世界！ 有名オペラ・アリア集 田村尚美(ソプラノ)、谷口悠美(メソソプラノ) 西村栞(テノール)、今井俊輔(バリトン) 石野真穂(ピアノ)	

※各公演の詳細は「せんくら」ホームページ(<https://sencla.com/>)をご覧ください。

## 「仙台クラシックフェスティバル2021」ご出演の皆様からのメッセージ

昨年に続きコロナ禍での音楽活動は未だ大きな制約があるなかでも、国内外で多くの活躍をされている出演者の皆さんに、「せんくら」への想いを語っていただきました。

### 公演番号【19】

#### 成田達輝さん（第5回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門第2位）

私の両親が青森県弘前市出身ということもあり、東北地方には深い関わりを持っています。仙台国際音楽コンクールに参加したのも、実は親戚に会うきっかけが欲しかったという理由もありました。毎年のように参加している「せんくら」には、故郷の東北で今までになかった新しい曲をたくさん聴いていただきたいという思いがあります。そこで今回は「音楽って何？」と題した特別なプログラムを組んでみました。

「せんくら」ホームページと私のYouTubeアカウントそれぞれにブログを公開しています。是非演奏会前にチェックしてください。



©Marco Borggreve



### 公演番号【51】【61】

#### 北田千尋さん（第7回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門第4位）

昨年の「クラシックエール仙台」に続き、今年も仙台へ伺えることを嬉しく思っております。今回はカルテット・アマービレで2公演に出演します。ピアソラ生誕100周年にちなみ「ブエノスアイレスの四季」全曲(同じく「せんくら」に出演される山中惇史さんの編曲)をお届けする他、藤倉大さんの委嘱新曲「アクエリアス」やドヴォルザークの「アメリカ」など盛り沢山のプログラムです。いつもあたたかい仙台の皆さまと音楽を共有できる時間がとても楽しみです。誠心誠意、演奏いたします。

Quartet Amabile(北田さん/右)

### 公演番号【9】

#### 鈴木 雄大さん（仙台フィルハーモニー管弦楽団クラリネット・バスクラリネット奏者）

2年越しとなりました今回の「せんくら」。「仙台フィル新入団員の顔見世」と銘打つ本公演ですが、まさに初日の10月1日、私は入団から4年を迎えます。果たして新入団員の括りに入って良いものかと些か気がかりではありますが、素晴らしい仲間と共に音楽できる機会を賜り、とても嬉しいです。

今回は2人のイギリス人作曲家にスポットを当てて選曲しました。吹奏楽界では大変有名な2人ですが、多くの管弦楽曲やソロ曲も作曲しているので、クラリネットの他にバスクラリネットの演奏を交えて皆様魅力をお届けしたいと思います。



### 公演番号【9】

#### 浦田 誠真さん（仙台フィルハーモニー管弦楽団首席トランペット奏者）

皆さんこんにちは、仙台フィルトランペット首席奏者の浦田誠真です。今年は「せんくら」でオーケストラだけでなくソロも演奏する機会をいただき、とても光栄です。今回演奏するアルチュニアン協奏曲は、技巧的な部分とたっぷり歌う場面の両方があり、華やかで力強いトランペットらしさがたっぷり詰まった、とてもポップでワクワクするような曲です。いつもはオーケストラの一番後ろでここぞの瞬間に登場して吹いておりますが、今回はソロ楽器としてのトランペットを是非お楽しみください。

### 公演番号【9】

#### 田中 洸太郎さん（仙台フィルハーモニー管弦楽団コントラバス奏者）

私にとっては今年で2回目の「せんくら」出演、2019年の前回は仙台フィルとしての参加でしたが、今年はソロも弾かせていただけることになり非常にワクワクそしてドキドキしております！コンサートでは3つの小品を演奏しますが、どれも雰囲気は違えども歌心に富んだ曲ばかりなので様々な方々に楽しんでいただけたらと思います。「コントラバスがソロを弾くとどんな音がするの??」ぜひ確かめにコンサートに来ていただけたら嬉しいです！





仙台国際音楽コンクールを支える大きな力

## 仙台フィルハーモニー管弦楽団をもっと知ろう！【シリーズ14】

今回は第一ヴァイオリン奏者 小山あずささんにお話をうかがいました。



仙台フィル マスコットキャラクター  
(C)MIKIO IGARASHI/S.P.O

**音楽を始められたきっかけ、ヴァイオリンとの出会いについて教えてください。**

私がヴァイオリンを始めたのは4歳のときです。当時、「スズキ・メソード」という音楽教育が世間で注目されており、それに両親が興味を持ち、近所のスズキ・メソードを教えてくださいのヴァイオリン教室に私を通わせてくれました。スズキ・メソードの教育方針は、耳で何度も曲を聴いて、それを覚えて楽しんで弾くというのですが、ただ耳で聴いて覚えた曲を自由に弾かせてくれたこの時間が楽しかったから、ヴァイオリンの練習を嫌にならずに続けてこれたように思います。

高校は埼玉県立大宮光陵高等学校音楽科、大学は東京藝術大学を卒業しました。大学での一番の思い出は、弦楽四重奏の勉強ができたことです。カルテット・エクセルシオのチェリスト大友肇先生との出会いはとても大きく、弦楽四重奏の魅力を知った私は、室内楽セミナーに参加したり、コンクールにも挑戦したりして、とにかく忙しく、駆け抜けた学生生活でした。弦楽四重奏を真剣に勉強できたこの時間は、今でも私の宝物です。

**ヴァイオリンを演奏される時どのような点に留意されていますか？**

演奏しているとき何かと繋がることができる感覚があります。共感できるものを求めてヴァイオリンを演奏しているのだと思います。生きていてふとさみしさを感じることや自分の奏でる音楽にほっとする、そんな感覚を大切にしています。

**現在使用されているヴァイオリンについてお聞かせください。**

ドミニコ・ブサンというイタリア製のヴァイオリンを5年前から使っています。製作年は1746年で大変古い楽器です。私の手に渡る前は100年位眠っていたみたいで、最初はなかなか音が鳴らなかつたのですが、最近ようやく響きが出てきたことを実感しています。

**昨年はコロナの影響で演奏活動が中断されていました。その時はどのようにお過ごしになりましたか？**

全く音楽活動ができなかった時期は、ヴァイオリンを演奏する時間が逆に増えました。演奏会があって、それに向けて練習をする日から離れ、自分のためにヴァイオリンを演奏していました。バッハの無伴奏ソナタをよく弾いていましたね。バッハの音楽が私の中の何かと繋がった瞬間を感じることができました。「本当に私はヴァイオリンが大好きなんだ」と再確認できました。

**オフの日はどのようにお過ごしでしょうか？ご趣味についてもお聞かせください。**

現在の趣味はウェイトトレーニングです。コロナ禍でジムに行き始めました。初心者なので、周りの方にフォームを教えてもらったり、ノートに記録を付けたりしながら進めています。当初は「ペラペラ」な身体を目指していましたが、真逆の方向を目指すようになりました。



小山あずささん

**現在所属されている仙台フィルについてお伺いします。入団のきっかけはどのようなことでしたか？仙台フィルの雰囲気はどんな感じですか？**

私はオーケストラのヴァイオリン奏者になるのが小さい頃からの夢でした。大学3年生の春休みに仙台フィルのオーディションがあることを知り、オーディションとはどんなものかを勉強させていただくつもりで挑戦しました。学生だった私を選んでいただいて、本当に感謝しています。仙台フィルの雰囲気は皆さんとても温かく、和気あいあいとしています。実は楽屋のケータリングサービスがとても充実しているんです。現在はコロナの影響で中止していますが、早く再開してほしいと思っています。

**2年振りの開催となった「せんくら」についてお聞かせください。**

**そしてこの記事を読まれる読者の方々に一言お願いします。**

今回はオーケストラ公演の他に、ソロ首席ヴィオラ奏者の井野邊大輔さんプロデュースの公演番号11に出演します。共演者は、仙台フィルのヴァイオリン奏者の岡村映武さん、仙台フィルにもよく客演でいらしていただいている東京シティフィル首席の臼木麻弥さん、井野邊さんのN響時代からのお仲間であらう銅銀久弥さんの豪華メンバーで、ブルッフの弦楽五重奏曲とベートーヴェンの交響曲第8番より(弦楽五重奏版)を演奏します。ブルッフの室内楽作品は演奏される機会が少ないかもしれませんが、隠れた名曲をたくさん残っていて、この弦楽五重奏曲もとても華やかに聞き応えのある作品です。まだコロナが落ち着かない状況ですが、皆さまに会場でお目にかかることを楽しみにしています。

**来年開催される第8回仙台国際音楽コンクールの準備と出場者の方々への期待についてお聞かせください。**

私たち仙台フィル楽団員は、ほぼ1ヶ月間コンクール漬けの日々を過ごします。共演する全ての出場者に対して、情みたいなものが湧きますし、あの緊張感だからこそ生まれる奇跡のような名演奏は、何年経っても覚えています。来年はどんな演奏に出逢えるのか、今からとても楽しみにしています。コンクール中はいつも身体がバキバキになりますので、筋トレで鍛えてしっかり準備したいと思います(笑)

## ～ボランティア活動説明会が開催されました～

6月25日、26日、エル・パーク仙台6階ギャラリーホールにて、ボランティア活動説明会が開催され、2日間で64名のボランティア希望者が参加されました。

まず全体説明として、事務局から第8回仙台国際音楽コンクールやボランティア活動概要の説明があり、次いでボランティア4部門(※)から、活動内容や体験談の発表を行いました。

全体説明後、参加者の皆さんは希望する部門のブースに移動して詳細な活動説明を受けました。

私たちの広報宣伝サポート部門には7名の方が訪れ、熱心に説明を聞いてくださいました。

広報宣伝サポート部門は、今、皆様がお読みの「コンチェルト」の企画・作成のほか、ブログの発信、コンクール期間中のWeb Mapの作成といったインターネットを利用した活動も実施しております。

私たちの活動にご興味のある方は、是非コンクール事務局にお問い合わせください。



(※)会場運営サポート部門、広報宣伝サポート部門、出場者サポート部門、ホームステイ受け入れ部門

発行：第8回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

